

は し が き

本報告書は、平成15年度に当研究所において実施した「イラク戦争後のプーチン政権の対外政策全般」の研究成果を取りまとめたものです。

9.11 事件を契機として、プーチン外交は共通の敵の存在に対するという意味で米国主導の対テロリズムの動きに共同歩調を取り始めましたが、これをもってロシアが米国の安定的パートナーとなったとは断じ難く、これが2003年のイラク戦争をめぐってどのような変化をとげるのかがロシア外交を見る際の新しい視点となりました。これを踏まえて本研究ではイラク戦争後のプーチン政権の対外政策を中心に、ロシア外交がどのような方向に向かって進んでいるのかにつき、調査研究を行いました。なお、対中央アジア外交については、別途の研究会を立ち上げ、そちらで検討を行っているので、ここでは研究の対象とはしていません。

今回の研究会はロシア外交に造詣の深い横手慎二・慶應義塾大学教授を始めとして、ロシアを長年にわたり様々な面からフォローしている方々が委員となっており、4回の研究会(各研究会では我が国の学会、経済界等、幅広い分野の方々が毎回30名近く集まり、質の高い議論が行われました)と、委員によるロシア出張の成果を踏まえてこの報告書を作成しました。

ここに表明されている見解は、すべて各執筆者のものであって、当研究所の意見を代表するものではありませんが、本報告書の内容が、わが国におけるロシア研究の質的向上に資することを期待します。

最後に、本研究に終始積極的に取り組まれ、本報告書の作成にご尽力いただいた執筆者各位並びにその過程で御協力いただいた関係各位に対し、改めて深甚なる謝意を表します。

平成16年3月

財団法人 日本国際問題研究所

理事長 佐藤 行雄

研究体制（敬称略）

主査	横手 慎二	慶応義塾大学法学部教授
委員	永綱 憲悟	亜細亜大学国際関係学部教授
	宮田 律	静岡県立大学国際関係学科助教授
	戸崎 洋史	国間研軍縮不拡散促進センター研究員
	伊藤 庄一	筑波大学博士課程
委員兼幹事	笠井 達彦	日本国際問題研究所主任研究員
固定オブザーバー	高木 誠一郎	青山学院大学国際政治経済学部教授
研究助手	白池 由美子	日本国際問題研究所研究助手